

北南
太平記圖會

友
正成
義貞
圓心

親王
護良

伊13
1789
4



13
新 1989
卷 4

南北太平記圖會卷之三

初篇

目錄

應瑞夢正成恭向行宮
 正成言下定四海安危
 四路東軍圍笠置山
 正成赤阪起義軍
 高時再發遣援兵
 東兵風雨襲笠置
 主上逃急潛走城南
 供奉鳳輦還幸六波羅
 重壁計正成碎東兵



正成濯熱湯惱東兵
 正成詐死退赤阪
 櫻山入道自伏一宮

南北太平記圖會卷之三

初篇

應瑞夢正成參向行宮

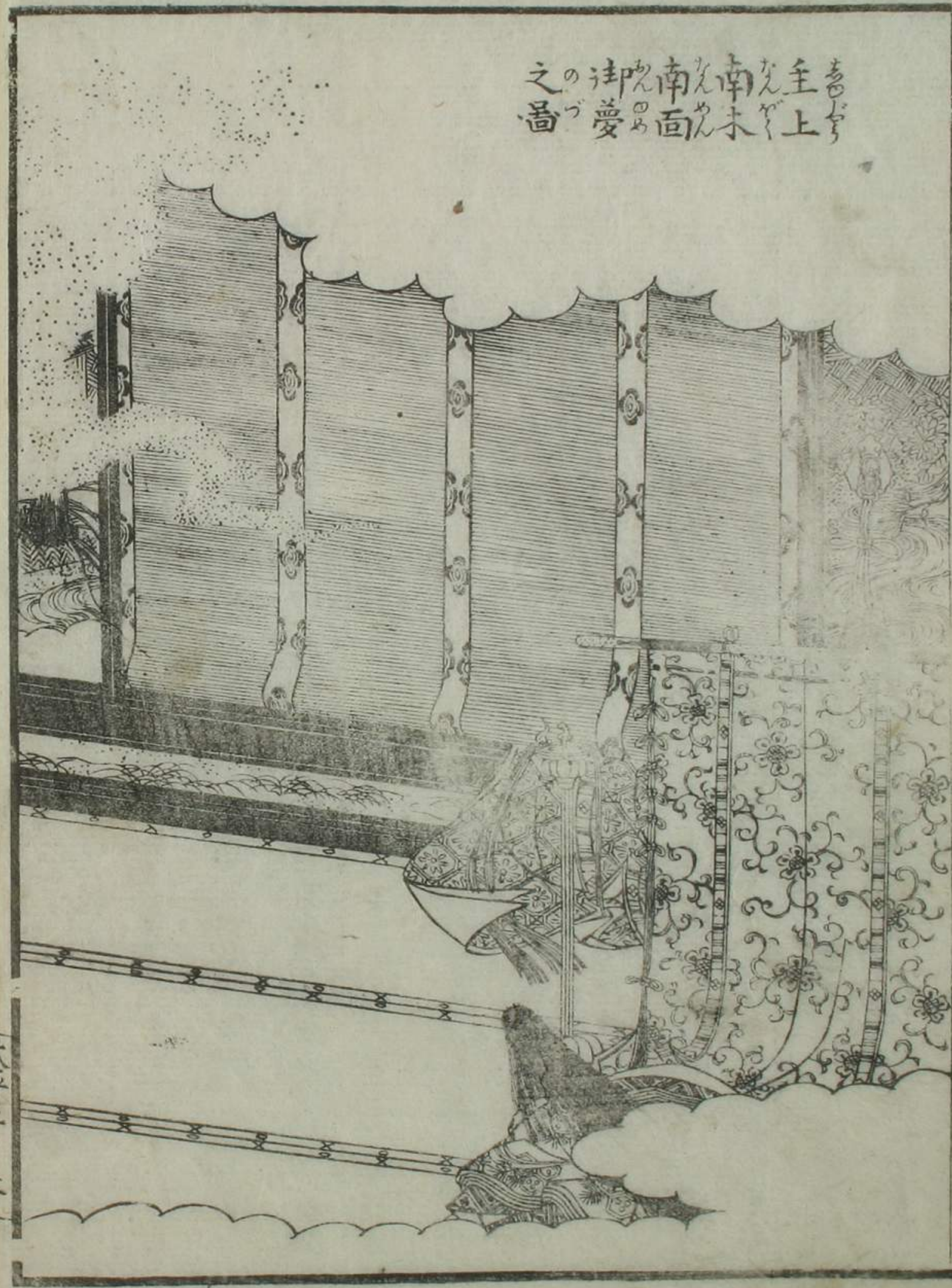
正成言下定四海安危

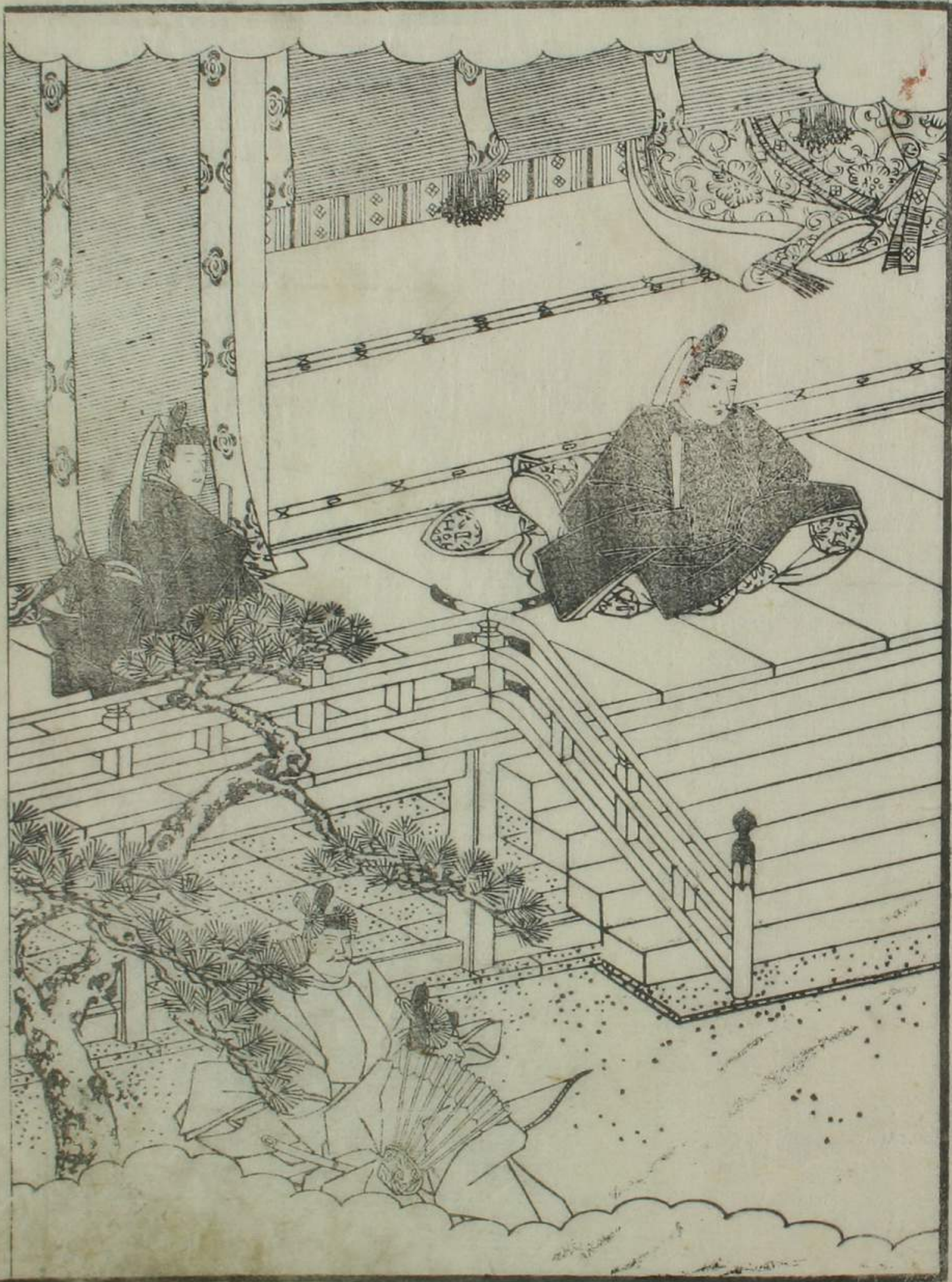
此時主上の笠置山の本堂と皇居と定め、楯蕃とてまじひ近国
 中國の兵と微うく、皆鎌倉及び六波羅の權勢と恐まらるや。
 召ふ應ずる者一人もかりけり。會東坂本の合戦、六波羅勢打
 負しとゆら、當山の衆徒と始め義勇、北軍此彼方より
 馳参る。あつとつとまゝと名ある大名、手勢百騎二百騎打せり
 者一人も参らざるまゝの。主上御心安く、思召はるせしむ。
 曾くまやろ、いりり御夢小、所々紫宸殿の庭前とて、まじり
 大なる常般名樹一株あり、縁の陰茂りて南へ、さう、技珠小榮え、蔓
 まる。そと、三公百官位、依り列を、南面小御座の墨とて、



敷く。其工よ未だ成らざる人なり。主上御夢心化小此席准為、經け
 くりやと。怪しく思はれて立世さすしひらりかゝる髪結るる童ふ二人忽ちと
 形と成り。主上の御前、跪き君野臣の逆と違ひゆくも。一天下
 同小習と玉體と信さるるごとく。幸ふ此樹ありは世下のあふ
 須けり。而して世に非ともて。外人の事子の遠く天へよりまぬと、以て
 て、徳く野夢の免ふ。主上意に諸君とらむと、御夢の極を悟り
 り人時小、英里少、始成房、御列とわく、對奏し、り、極、夢の免す、や
 皆心伸、思想の致す、わく、而して、怪、美の、不、同、半、在、時、り、別、ら、夢、の、免
 孫、奇、瑞、も、亦、各、矣、なり。右、後、よ、野、夢、なり、と、中、惟、く、と。同、體、よ、六、夢
 の、經、あり、所、謂、ふ、正、夢、二、小、噩、夢、三、小、思、夢、四、小、疾、夢、五、小、喜、夢、六、小、
 懼、夢、と、惟、故、く、世、の、終、く、る、夢、皆、く、右、出、あり。昔、黃、帝、大、風、天、下、の
 夢、垢、を、吹、く、と、夢、を、と、風、后、と、海、隅、と、傳、す、と、千、約、の、如、く、を、執、と、羊

數、百、群、と、記、と、夢、の、そ、力、牧、と、大、河、小、得、文、王、と、飛、越、と、夢、人、と、呂、尚、武
 清、溪、小、ゆ、ら、と、惟、と、夢、に、唐、陽、夢、の、微、つ、て、野、實、も、ゆ、と、夢、と、見、惟、く、り、
 如、く、と、惟、く、り、と、今、居、が、え、と、み、と、君、の、夢、と、判、惟、く、黃、帝、の、風、后、力、牧、と
 得、文、王、と、呂、尚、と、得、と、り、と、ぞ、く、と、夢、と、天下、と、後、陰、中、き、林、光、の、賢、人、と、
 ち、と、び、南、面、の、徳、と、活、め、く、と、天下、と、中、具、く、と、之、き、微、く、と、心、存、わ、る、き、と、惟、と
 申、し、ん、け、と、ら、主、上、又、小、喜、と、せ、ら、ひ、今、御、が、經、知、と、み、と、思、つ、ふ、南、ふ、向、入
 ち、り、夜、席、と、ら、ね、も、と、ま、さ、す、南、面、の、前、案、二、童、子、の、日、月、の、二、天、と、瑞、と、み、す
 や、あ、る、又、南、ふ、く、く、り、其、の、是、棟、の、文、字、か、り、朕、と、ま、く、この、逸、小、木、氏、の、
 武士、あ、る、事、と、別、知、と、り、御、臣、く、穿、鑿、を、と、宣、ひ、く、ま、ら、る、庭、房、の、軌、と
 奉、ら、と、あ、ま、と、通、つ、と、年、の、求、む、と、も、あ、る、人、な、り、り、り、り、唯、南、山、の
 唐、徒、成、就、揚、律、師、快、元、と、つ、つ、の、終、け、事、と、あ、つ、て、終、り、り、り、り、
 と、ふ、と、く、に、内、國、合、別、山、の、り、小、楠、心、成、と、名、系、武、士、あ、り、宅、の、西、小、楠、を、き







足助重範
 笠置の城
 一の木戸より
 谷を隔て
 荒尾見守
 を射る旨

多岐の事... 源中... 督定... 源中... 有清... 大受... 日く侍... 此所...
源中... 督定... 源中... 有清... 大受... 日く侍... 此所...
源中... 督定... 源中... 有清... 大受... 日く侍... 此所...

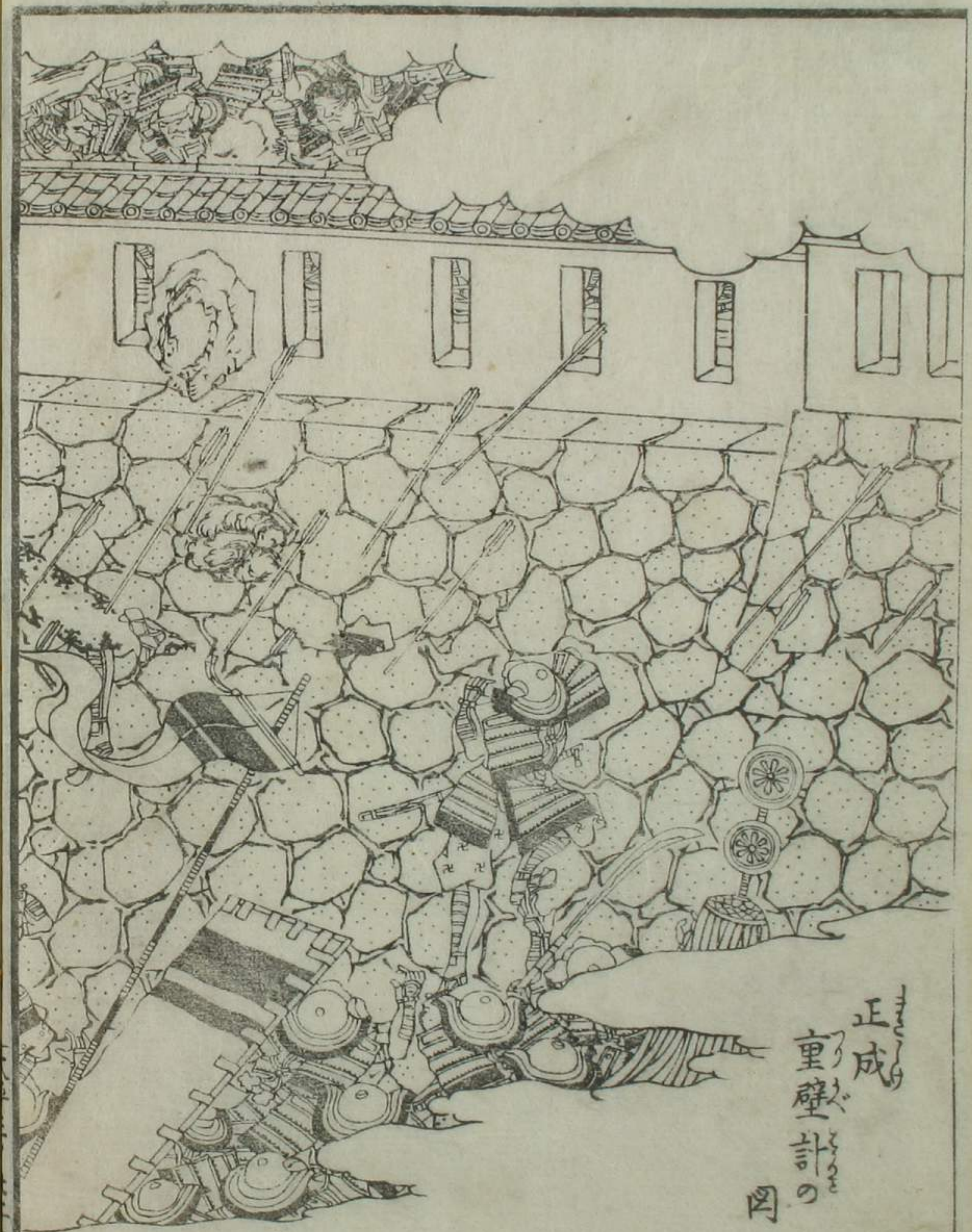
多岐の事... 源中... 督定... 源中... 有清... 大受... 日く侍... 此所...
源中... 督定... 源中... 有清... 大受... 日く侍... 此所...
源中... 督定... 源中... 有清... 大受... 日く侍... 此所...

國貞知を外の國人をわらひて一人のたぐひにけり。高橋中納言高房
卿源少将忠政於后跡人とな。主上小迫侍も也放し人のてりて
六波羅をもあまきさる。月九日強く三将の林雲と明院新帝の
御方へ渡され堀川大納言奥親の目申中納言資右衛門と清和の
て長講考へ送りてせり。主上國守の長井彈正藏人水谷高徳人
他馬島新帝使は未だ後判者ともなき。月十五日持明院新帝
登極の中して。長講考より内裏へ入らせり。供奉の諸御花をば
仍妝と刷ひ置きの武士甲冑と帝と此常と成ひ。りり先帝身
公の方極の答あもせり。もあがり。長月より。平小親も
をた。ゆと解も。新帝拜齋の人。い忠あも。あきも。唯。宗。花。と。年
ふ。わ。と。目。を。取。ぐ。り。身。を。取。り。實。結。ん。だ。信。を。な。り。花。屋。く。枝。と。舞。子。高。遠
時。を。終。業。等。通。と。分。つ。今。小。治。の。夏。を。さ。る。も。時。又。よ。夏。と。知。と。分。つ

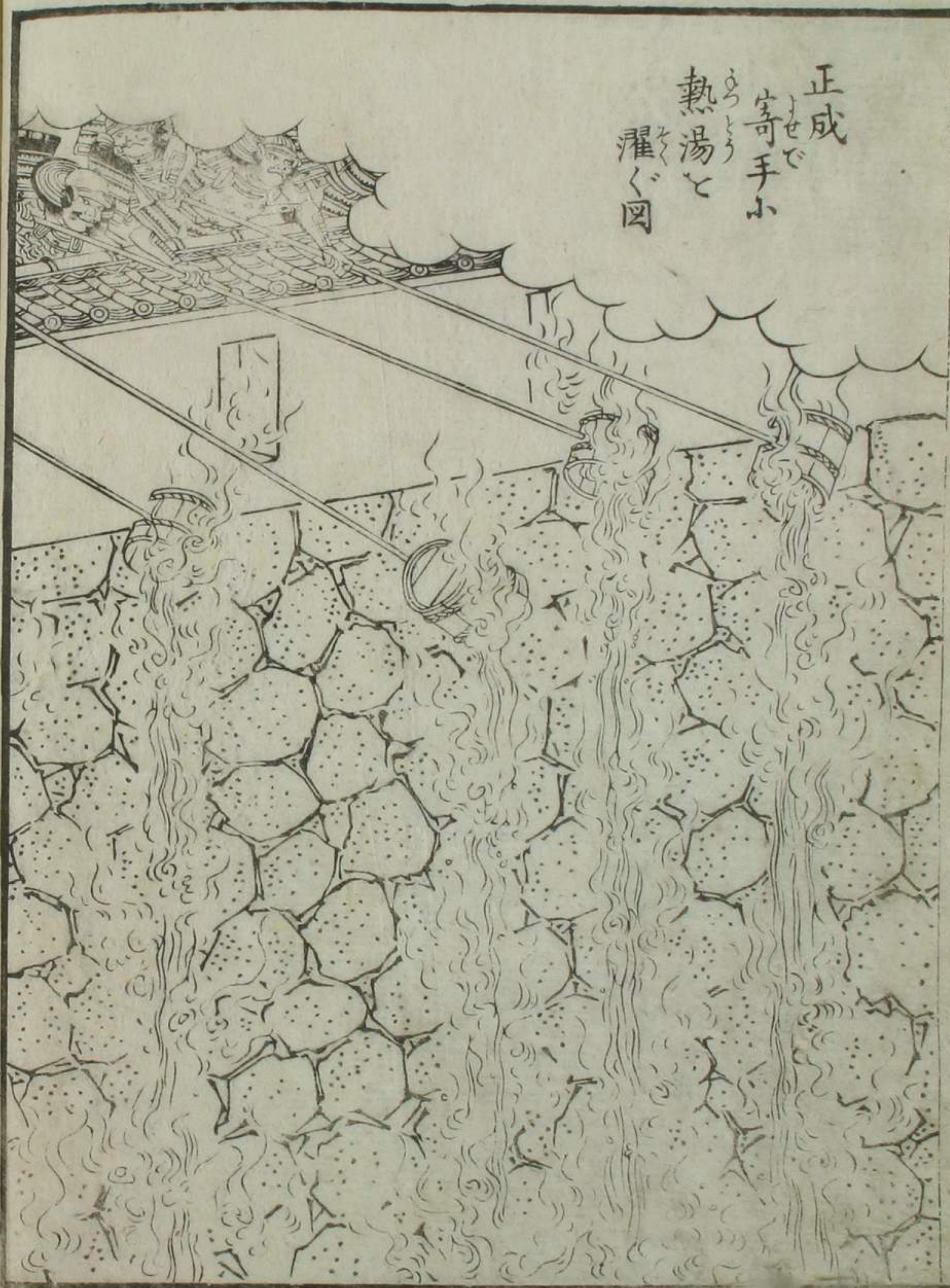
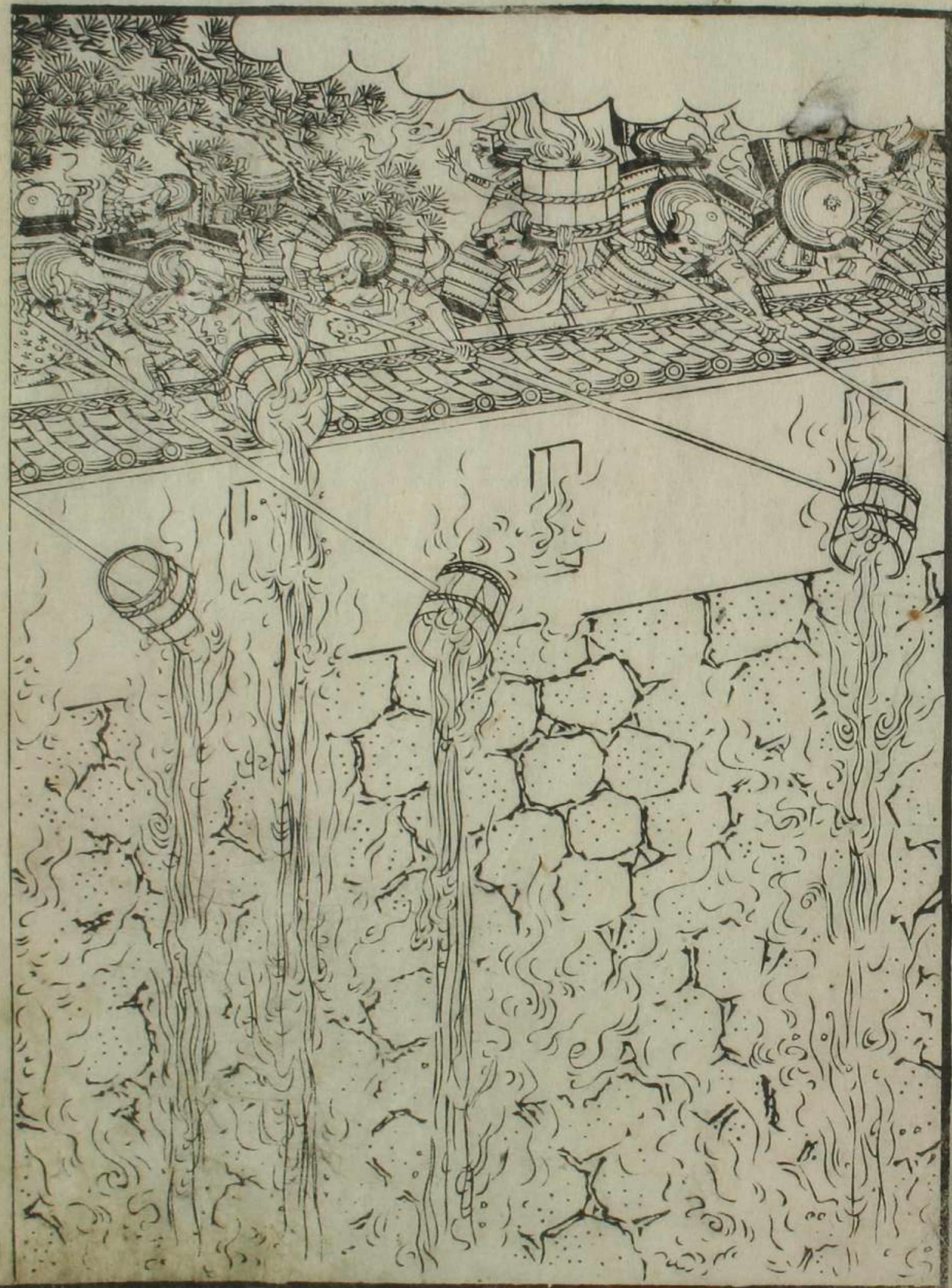
萬りし此時なり

重壁計正成碎東軍 正成濯熱湯惱寄手

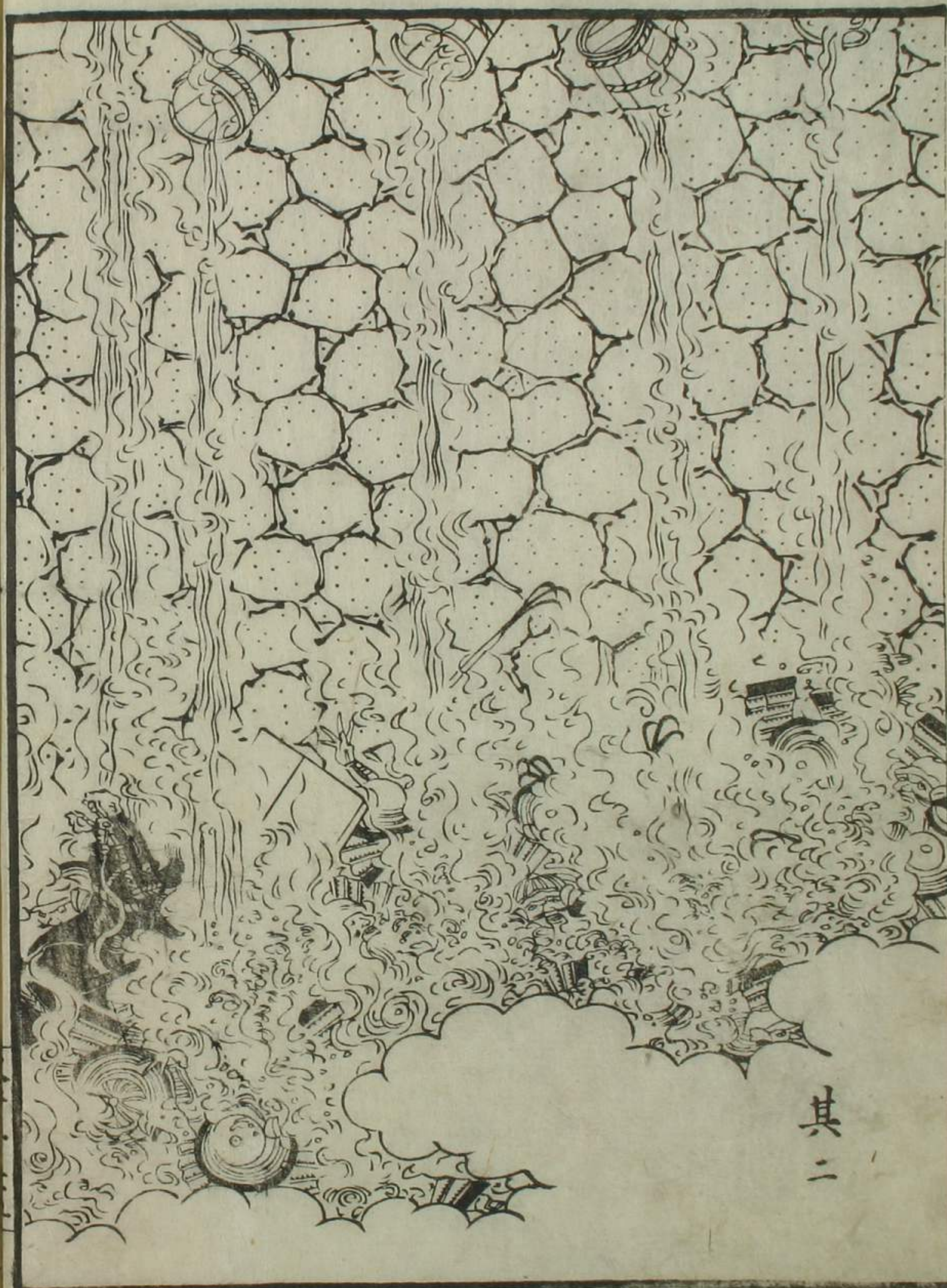
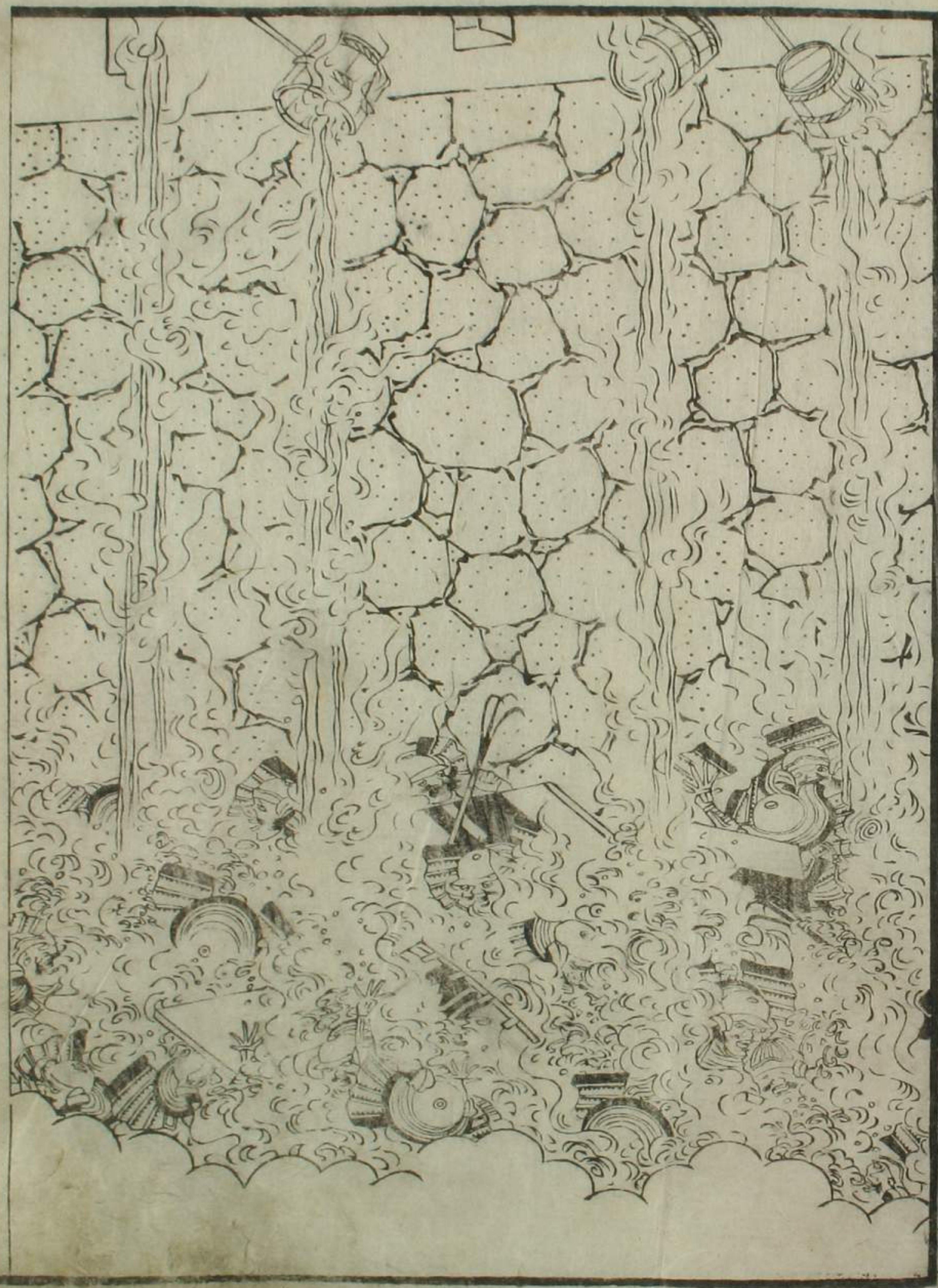
さて又東國より遙く。さうなる大勢の最陣。すふ迫り國へ進。後陣
い。ま。と。迫。り。の。國。へ。入。り。ぬ。あ。ふ。さ。さ。の。陣。も。あ。ら。う。く。す。え。け。と。い。ふ。人。の
幸。ふ。あ。ひ。て。き。人。も。あ。ら。う。く。す。後。陣。の。伊。賀。伊。勢。の。山。と。徑。前。陣。の。居
碓。礮。の。り。と。要。り。は。河。へ。出。捕。ま。さ。り。捕。ま。さ。り。赤。坂。の。城。と。い。ひ。り。り。え。き
正。成。の。漸。の。備。り。も。入。り。か。ら。い。ち。の。利。を。し。柳。が。り。と。え。も。後。會。の。付
子。過。さ。ら。う。の。思。ふ。ま。さ。の。陣。中。へ。力。を。做。え。ん。が。為。小。治。の。終。と。さ。る。寄
し。と。後。あ。ら。い。持。の。衆。と。ら。飛。け。や。ま。の。遠。信。と。な。す。人。と。あ。ら。う。く
み。ら。ま。さ。り。不。落。城。後。會。加。勢。の。大。軍。も。あ。ら。う。く。と。着。し。引。ま。さ。り。後
へ。善。の。あ。ら。い。守。り。け。は。る。正。成。の。作。業。衆。も。あ。ま。さ。り。と。さ。る。人。も。あ。ら。う。く
て。張。良。陳。平。の。肺。肝。と。扱。ぬ。ぬ。と。幕。の。中。小。遠。く。後。と。と。千。里



正成
重壁計の
図



正成
寄手小
熱湯と
濯ぐ回



其二

正成死して作て
赤坂の城と
退く國



正成死して作て
赤坂の城と
退く國

夜中津陣の先と果内も守り思ひやりふらふをこころあはれまじ。正成も更
 とりそち大將の西内のも者も惟が道と踏まへてゆまうといひ物づく。不足
 行るるまの智めつる者もいざあを。惟若もまを。あつるも。人なる。一。惟
 殺して。く。ん。す。も。あ。ご。ら。あ。を。ぬ。も。こ。こ。を。こ。よ。り。ま。志。中。を。ぞ。け。り
 たり。ま。矢。山。林。を。清。の。無。り。ふ。こ。人。て。惟。ふ。ま。ぬ。と。ま。ん。ふ。ま。れ。か。が。う。り
 かり。も。痛。ま。守。る。あ。あ。音。と。返。し。て。死。翻。る。後。ふ。ま。矢。の。腹。と。ん。ま。い。れ。の
 ち。後。小。遊。透。つ。く。二。林。の。年。以。信。と。後。ま。り。と。る。親。善。徑。の。一。心。持。右
 の。こ。わ。の。傷。と。射。あ。う。つ。る。を。不。思。議。ま。ま。正。成。必。死。の。激。と。の。が。ま。せ。町。あ。ま
 後。ま。ま。後。の。方。を。後。つ。こ。ま。が。幼。衆。も。ま。り。と。ど。子。隊。の。後。前。く。ま。矢。と
 思。う。り。あ。の。子。の。守。勢。も。ま。下。難。き。ま。ま。や。城。中。あ。ま。の。い。の。田。の。か。り。後。う。り。と
 免。ゆ。る。を。ま。人。の。救。も。あ。ま。り。れ。後。ま。ま。と。一。月。あ。ま。の。お。く。と。ま。て。後。原
 ま。ま。ぞ。押。あ。う。り。梅。の。跡。へ。ま。り。和。田。務。多。田。永。生。代。の。田。人。の。あ。ま。も。死。殿。の



是を謀計行と号て大に穢しう人。但し國の為人民のあつては謀計も
かたぶくは神をまを神使も方便も号て氣をす。唯そのあつて謀
計をよと虚をとか人々を惑へよと極めよとまらう。大なる不徳にして
神仏あまを惑へし。諸人々を指さすのなり。二つは慈悲の心も我
のく業し事と号入。佛りまを極えと後を。神りまを端とあひし事人
我の業のれの本なり。我人を極まざる人まを極つ己れんとあつた
人もまをとんと人國之事をます事い起りまの強さの弱の負の
故小弱きの強きふたし。大なる弱と加つた。強きの益強きかたを。後
心とまを。修極のまの事を。まを。民と昔の國家と。私と道
つて人まを。小我の。業つた。神佛共。極め。ま入なり。二つは身の不
淨と。念の。淨なり。身の不淨と。つた。獸の肉を喰ひ。毒。婦を好む
女。月水の。穢。ま。か。の。ま。ま。お。ひ。と。身の不淨の。根。を。す。又。神を

死と。不淨と。大と。忌。う。人。是。生。の。大。切。かり。と。知。く。身。と。堅。く。極。し。む
の。穢。なり。大。と。忌。半。も。極。と。堅。く。日。ん。が。あ。たり。淨。心。の。不。淨。と。ふ。欲。ん
深。く。し。て。討。ま。と。極。小。積。ま。つ。と。ま。ま。と。業。も。身。の。為。ふ。ま。を。ま。す。と。人
ども。人。の。為。ふ。ま。も。あ。む。む。ま。ま。と。人。身。の。不。淨。と。飛。た。し。念。の。不。淨
ハ。猶。多。し。今。の。人。世。く。し。け。は。理。と。あ。ら。う。神。業。能。と。淨。め。神。佛。と。れ
拜。する。と。之。も。念。を。淨。め。ど。親。を。孝。う。う。ら。ふ。忠。なく。欲。深。く。し。て。ま。れ
ふ。ま。を。ま。す。か。念。根。業。抄。不。純。む。事。と。折。り。玉。佛。金。放。の。教。と。並。し。し。
と。然。ふ。後。も。不。淨。と。れ。ま。す。と。神。小。神。佛。と。好。む。神。水。淨。と。い。の。れ。ど。神
仏。納。受。し。り。ん。や。身。不。徳。ま。す。と。業。中。の。不。義。の。面。ま。う。う。淨。つ。ま。の。こ
し。念。身。業。ア。ん。と。欲。する。もの。を。身。の。徳。と。わ。別。す。べ。く。身。不。徳。と。つ。ひ。徳
角。う。面。く。又。必。死。の。業。難。し。も。す。め。つ。べ。く。不。善。業。ま。す。と。も。あ。ら。は。け。理
と。考。へ。作。思。今。度。神。佛。の。佛。と。あ。つ。て。必。死。の。穢。と。の。ま。と。作。し。罪。を。受

作と潤を押して中より進んで一兵の住居も皆焼滅して僅か一人も残らずに
成り親の寺に宗居し一族は居るに近御所も焼滅し焼く時
評して云ふ成は少神祇の居る所として身も焼くは人の住居も人の住居も
そのあつたや平林の状況もろくも焼くは人の住居も人の住居も
まじく死を焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
うずまき神の居る所も焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
日神武帝 和歌の和歌と進路しゆひり 較千本は焼く焼く焼く焼く焼く
勇のこのを焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
も黒居の所は親居人共も焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
校印も焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
准后大僧父と傳手せり焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
大僧父と親居し焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
道を焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
此も焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
けしき 揚山は所入居後も焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く

へむ。女藤原國とや切鹿人と評定通かるる者も皆焼滅し焼く焼く焼く
天國とせむし赤坂も焼滅し焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
集り焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
その身を焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
あはれ昔より身家持を執り又氣を尽し焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
む今又親しき者も皆焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
大木力も焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
あり八幡も焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
火をうけ已も後と捨きり一族も皆焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
押切も焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
いふと尊ありふけ入通御社も焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
かりたるは次も焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く

